

○ 本校の概要

通常学級12、特別支援学級4で、全児童数は283名である。池上線蓮沼駅、多摩川線矢口渡駅から徒歩圏であり、周りには本校名のバス停が3か所ある。区内のどこに行くにも便利な場所にある。学区は商店や工場もあるが、大半は静かな住宅地である。学区が狭く、小規模校ゆえに児童は日頃から学級、学年の枠を超えて仲良く遊んだり活動したりする姿が見られる。特別活動では、縦割りの良さを生かした活動が年間を通して行われている。教職員はほぼすべての児童の名前と顔が分かるので、学習指導、生活指導において一致した指導が進められている。確かな学力を育成するために、各学年、外部機関と連携した体験的な学習を実施し、人材を活用したキャリア教育を行ったり、IT機器の活用を図ったりする多様な教育活動を積極的に推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が90%以上。	2	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学習に進んで取り組むことに保護者は、そう思う47.3%少し思う35.1%計82.4%と肯定的に捉えている。児童が学ぶ姿勢をより意欲的になるように、学校では指導法の一層の改善を図る。また、家庭においても家庭学習の定着を目指す。学習することが楽しいと強く感じる児童は、74.6%(前年比+7.6%)やや感じる児童は19%(前年比-3%)と合計では前年比を4.6%上回ることができた。 学習に対し前向きでない児童に対しては、教員が補習教室に積極的に参加することを促し、学習チェックシートや学習カルテを活用し児童個々の基礎力定着へ取り組む。 また、一方矢東スタンダードの中で、授業規律の維持については縦ひが見受けられる場面があり課題となった。課題を克服するために、学年単位、全校体制で学習ルールを再度見直し、学習環境の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた授業に取り組むことができてはいるが、場面によっては静かすぎるかなという面が気になる。 自分たちが子どもの頃とは違い、テレビに写真を写し、堂々と発表をする児童の姿に感心する。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が80%以上。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が70%以上。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が70%未満。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	「矢東学習スタンダード」			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が90%以上。	3	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止へ向けて、児童対象に、各学期アンケートや面談を行い、必要に応じて保護者の面談につなげるとともに、校内委員会や生活指導部会、いじめ防止委員会等を活用し、児童理解に努める体制は構築している。幼稚園・保育園との連携や児童相談所、教育センター等の公的児童支援機関との情報交換をより密に行い児童理解に努める。 挨拶の状況は、アンケート実施の時期により、児童の意識の差が顕著になることがある。常時活動としてあいさつ運動を展開するか、児童会や学級活動を通じ全校であいさつの意識を高めるように意図的計画的組織的対応を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内での児童のトラブルがあっても、解決するために双方の意見を聞き、自分のまずかった点や相手を感じる心振り返らせ、根本的な解決につなげ、指導してほしい。 学級担任と生活指導部が連携し組織的に対応することでいじめの防止を図る。 コーディネーターが特別支援教室を活用するために関係者とのつながりを密にし、児童が自分らしさを発揮できる場を設けることを期待する。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が80%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が70%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が70%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
豊かな人間性と創造力を育てるためにキャリア教育を推進する。						
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が90%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> 前年度は一校一取組運動は学校全体で取り組むことができた。一学級一実践には課題を残したが、マラソン週間やなわ跳び週間に絡め、児童個々の体力の向上を目指し、個々の体力向上に努めることができた。 30分休みを通じ外遊びを励行したが、学級間により温度差があり、目標を達成することができなかった。また昨年度と今年度は、アンケートの実施時期にも違いがあり、今年度は低い数値を示している。外遊びを実施する時期の関連性も考え次年度以降アンケートを実施する。休み時間は外遊びをする意識を児童に根づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの奨励を是非してほしい。放課後校庭で伸び伸びとボールを蹴ったり、思いっきり走り回ったりして遊ぶ児童がいることは、よい。 おやじの会が発足し、外で遊びや、イベントで児童との関わりが増えたことはよい。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が80%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が70%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が70%未満			
		体力向上へ向けた、一学級一実践を行う。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善セミナーの内容を踏まえるとともに、本校児童の学習状況の分析を行い、そこから見えてくる児童の学習傾向や課題について検討を加えた。基礎的な学力は定着しているものの、思考・判断力や学習課題を見通しどのような方法で解決を図るのかという点では、課題を抱えていた。課題克服のために、校内研究を進め、区や都の研修会に積極的に参加し、教員の中から教師道場の研修生や東京都教育研究員に参加できる土壌を築く。 約8割の保護者は、本校教員の授業の分かりやすさ、協力体制等を評価している。次年度へ向け全校体制で授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の充実を図るために、教員が研修や教材作りに多くの時間をかけて取り組む姿に感謝する。 学校が一体となり継続して学力向上に取り組んでいることは、学校公開からも分かる。さらなる向上を目指し、取り組んでほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が80%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が70%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が70%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新は、サポートサービスを利用し更新回数が増えた。また、ブログの更新をこまめに行い、移動教室の宿泊行事に関する学校の配信するメールについては保護者や地域からも評価を得た。 授業や体育行事、学芸的行事、体験学習を公開し、保護者の参加率が高い。自分の子どもの学年以外の体験活動で、どのような地域の人材を活用しているかが分かりにくいという意見が約10%あった。具体的活動内容の紹介や人材の紹介を保護者に見える形で広報活動に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ブログがこまめに更新されているので、行事や学習活動の様子がよく分かる。また、児童が楽しく、生き生きと活動していることも分かる。 保護者により開かれた学校であることを伝えるために、丁寧な説明が必要である。学校だよりや配布物、HPなどでPRする必要がある。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が80%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が70%以上			
			1:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が70%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。